

建設現場で発生する木パレットのリユース実証

～建設業のサーキュラーエコノミー実現に向けて複数企業が共同実施～

建設RXコンソーシアム^{※1}の「作業所廃棄物対応技術分科会（竹中工務店、鹿島建設、熊谷組、銭高組、東急建設、五洋建設、清水建設、佐川急便、SGムービングの9社が参画）」は、サーキュラーエコノミー（資源循環）の実現に向けて、建設廃棄物のリユースを促進する活動を開始いたしました。今般、その活動の第1弾として、木パレットリユースについて検証を開始しました。

■ 取り組みの背景

建設現場では資材の搬入時に多くの木パレットを使用していますが、使用後に残置されてしまうことが多くありました。残置されるパレットの中にはリユース可能な良品も多くありますが、引き取り手がいないため作業所で廃棄されているのが現状です。また、中古パレットとして販売することも可能ですが、引き取りにはある程度まとまった数量のパレットが必要となるため、タイムリーな搬出が常に求められる作業所において所定の枚数を保管・蓄積することが困難でした。

そこで、建設RXコンソーシアムの作業所廃棄物対応技術分科会に参画する複数企業が協力し、同日内に複数の作業所から木パレットを回収し、リユースする仕組みについて検証を開始しました。



■ 木パレット共同回収の実証概要

東京都内の複数企業の4つの作業所を対象に、回収からリユース販売までの流れを同日内に実施し、今後に向けての課題を抽出しました。

実施日	1回目 2024年12月17日 2回目 2025年03月13日
対象作業所	銭高組、竹中工務店、五洋建設、清水建設の東京都内の作業所
木パレット対象サイズ	1.1×1.1m、1.2×1.0m、1.4×1.1m
条件	事前仕分けを行い良品のみを回収



実施状況

■ 実証結果と今後の活動

今回の実証を通じて、従来は廃棄されていた木パレット 119 枚を回収し、リユースすることができました。

一方で、良品以外（リユースできない物）の回収方法、パレットの選別作業、作業所間での集荷時間の調整など、多くの課題も抽出できました。

今後も、建設 RX コンソーシアムでは、作業所廃棄物対応技術分科会を通して、建設業におけるサーキュラーエコノミー実現に向けた活動を継続してまいります。

※ 1 建設 RX コンソーシアムは、建設業界が抱える就労人口の減少、生産性・安全性の向上などの諸課題の解決に向け、施工ロボットや IoT アプリ等の開発と利用に係るロボティクストランスフォーメーション（ロボット変革）を推進すべく、2021 年 9 月に設立した民間団体です。

■ 問い合わせ先

建設 RX コンソーシアム ホームページ「お問い合わせ」

<https://rxconso-com.dw365-ssl.jp/>